

第2回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会会議議事録

平成24年8月8日（水）

【司会】 それでは、定刻となりましたので、平成24年度第2回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開催させていただきます。

皆様におかれましては、お忙しいところ、また、お暑い中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私、本日の進行をさせていただきます企画部技監の安保と申します。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、報道機関及び傍聴人の皆様をお願いを申し上げます。写真撮影につきましては、議事報告に入る前までとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会の竹内委員長からご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 竹内でございます。お暑うございます。

今日は2回目でございますので、特にご挨拶することもないかと思うんですけれども、1回目からこの間、中津川市だけではなくて、あちこちでこのリニア中央新幹線の話が俄然活気を帯びてまいりまして、私もこの問題で講演を中津川市でさせていただいたのが1回目でございます、それから、この8月の初めに5回目、同じテーマで5回もお話をさせていただくような機会が非常に多くなってきております。

その中でいつも申し上げていることなのでありますけれども、やはりこの超電導磁気浮上式鉄道というのは何といても新しい技術でございますので、いろいろな面で皆さんに、初めて聞いた方はかなりの不安があるんだろうと思うんですね。特に昨年の東日本大震災に伴いますいわゆる原子力発電の事故、災害に鑑みまして、同じように先端技術でリニア中央新幹線も危ないのではないかという同じようにやめたほうが良いというような議論を単純なアナロジーというか、類似でそういう議論をかき立てる一部のマスコミ等もございます。しかし、私はこれは根本的に違うと思っております、原子力発電の問題と似たところは全くございません。ですけれども、そういう議論を頭から笑って排除していくのではなくて、そういう不安感というのにも慎重に1つずつ1人ずつ「そうではない、大丈夫ですよ。」という話をしていく必要があると思います。そういう意味では、この策定委員会の皆様におかれましても、そういう議論の、それから、市民の皆さんの不安とか、そういう根拠がないまでも漠とした不安というようなものを消し去るための橋渡しの立場に立っておられるということをご認識いただいて、できるだけこういう委員会の席で実態を勉強していただいて、よく考えていただき、そして、お知り合いの市民の方々にもお話ししていただくようにしていただくことが大事ではないかと思っております。

いずれにいたしましても、議論はやはり慎重に、私どもがよく実態を理解するということから始めることが大事ではないかと思っておりますので、今後のこの委員会の審議におきましても、皆様少し首をかしげるようなことがございましたら、何なりといつでもご指摘、ご発言いただくということが大事かと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

今回から新たにアドバイザーとして地元の中京学院大学から安達学園理事長の高嶋様にもご参画をいただいております。また、オブザーバーといたしまして、国土交通省中部地方整備局から多治見砂防国道事務所の伊藤所長様、企画部広域計画課の小倉課長様、建政部都市整備課の福田課長様、道路

部地域道路課の棚橋課長様にもご参画をいただいております。皆様におかれましては、それぞれの見識からご助言をいただきたいと存じますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいま紹介をさせていただきました皆様方から自己紹介をちょうだいしたいと思います。

(各委員挨拶)

【司会】 ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

また、本日は、多治見砂防国道事務所調査設計課より戸田課長様にもご出席をいただいております。それでは、資料の確認をさせていただきます。

資料につきましては、事前に送付をさせていただいておりますけれども、本日新たに配付させていただきます資料としまして、配席図と本策定委員会の名簿、また、参考資料といたしまして、9月5日に開催されますリニア中央新幹線を活かした地域づくりシンポジウムの案内書、それと、次回以降の日程を記載したものが配付してございます。今一度、資料一覧表のほうでご確認をいただきたいと存じます。

それでは、報道機関の皆様はここで写真撮影は終了させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本策定委員会につきましては、資料及び議事録をすべて公開することとさせていただいておりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、これより議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては、策定委員会の竹内委員長にお願い申し上げます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 それでは、議事は座って進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

今日の議事でございますが、報告事項が初めに2つほどございまして、それから、審議事項、議事が3つございますね。その後、その他の案件がちょっとありますけれども、これを順番に進めさせていただくことにいたします。

それで、まず、報告事項の1でございまして、第1回ビジョン策定委員会についてということで、資料を使いましてご説明をいただきます。

それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

【事務局】 皆様、こんにちは。

私は、事務局を担当しておりますリニア推進課長の渡辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にてご説明を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告1-1をお願いいたします。

これは第1回の策定委員会の議事録でございまして、既にホームページで公開済みでございます。24ページと非常にボリュームがあるのでございますので、お時間のある時にご覧いただければと存じます。

次に、報告1-2をお願いいたします。

これは委員の皆様から会議の中で、また、委員会後に書面で頂戴したご意見でございます。そして、その対応事項をまとめてございまして、ビジョン策定の進め方、ビジョンに盛り込む内容、今後検討の中で整理が必要な事項、具体的なアイデアと多岐にわたるご意見を頂戴しております。

いただきましたご意見に対する対応の方向は右側のほうの対応欄というところに記載してございまして、主なものとして、今回、高嶋理事長さんにアドバイザーとしてご参画いただくことや幹事会への部会設置をご提案させていただくこと、それから、地域間交流の状況、車両基地の概

要、リニア開業時の社会情勢などの整理を行うことなどがございます。

また、詳細な説明につきましては、この後、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの宮下さんにお問い合わせするといたしますけれども、報告1 - 3から報告1 - 5の資料について概要を私のほうからご説明を申し上げます。

まず、報告1 - 3をお願いいたします。

これは、リニアがこの地域に与える影響を予測するうえで日常の交流、これは市外、地域内も合わせてでございますけれども、そういった地域のつながりを把握する必要があるとのご指摘がございまして、その整理を始めたものでございます。

今回の資料は市職員24人からの聞き取り調査をまとめたものでございますけれども、精度を上げるために市民アンケートでも設問を設けて、ご意見を頂戴して整理をしてみたいと考えておるところでございます。

次に、報告1 - 4の車両基地に関する資料をお願いいたします。

これは、私どもが平成22年4月の市議会特別委員会にご提示申し上げた資料を再整理したものでございます。現在のところ、JR東海さんから車両基地（工場）も含めてでございますけれども、そういったものに対する新たな情報というものはございません。そうしたことから、今回、参考としてつけさせていただきます。随時機会をとらえてはJR東海さんのほうにそういった資料提供をお願いしたいと考えておるところでございます。

次に、報告1 - 5のリニア開業時の社会情勢をお願いいたします。

このまとめは、リニアが開業する15年先は産業構造や社会経済構造が大きく変わることから、その時点における社会構想のイメージ、そうしたものをポンチ絵的なもので示していただくと一歩踏み込んだ議論ができるというようなご指摘をいただきました。そういったご意見に基づきまして作成したものでございます。

それでは、今申し上げました報告1 - 3から1 - 5までの中身につきまして、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの宮下さんからご説明をいただきたいと思っております。

【事務局】 三菱UFJリサーチ&コンサルティング、宮下と申します。今回、このビジョン策定に当たり、調査のほうをお手伝いさせていただいております。本日はよろしく申し上げます。

座って説明させていただきます。

まず、報告1 - 3につきまして、地域間交流等についての資料をご覧ください。簡単に説明させていただきます。

1ページの図を見ていただきたいと思います。

左側の図は中津川市をオレンジで描いてございまして、中津川市に住む方が市外にどのような通勤をしているかといったもの、通勤、通学しているかというものを平成22年の国勢調査から見たものです。

これを見ますと、中津川市外への通勤者数というのは、恵那市へ3,869人、次いで多いのが名古屋市1,127人といたところでございます。黄色で塗っているところは100人以上ある市町村でございまして、中央線沿線であるとか、下呂市というところで、近隣市町村が多いということです。

その交通手段割合を下の円グラフでかいてございまして、中津川市外へは自家用車が65%、鉄道を26%が利用していると。ここは恵那市が3,869人いますので、自家用車の割合が高くなっております。中津川市内におきましては、自家用車の利用で通勤されている方が8割ということです。

一方で、右側の地図をご覧くださいと、中津川市に通勤、通学される方は何人かということで、恵那市からは4,000人、次いで、隣接する南木曾町451人、瑞浪市469人といたところでございます。こういった通勤、通学の状況が広域に見たらあるということでございます。

続きまして、2ページになりますが、商業の動向はどうなるかといったところで、消費活動の状況

ということを整理しています。これは岐阜県消費者購買動向調査報告書と、平成19年度の調査したものがございまして、中津川、恵那地域の住民の方々に主な買い物場所について、買い回り品、紳士服、婦人服等から準買い回り品、下着、薬品、最寄り品、食料品、生活雑貨、贈答品の分類で聞いたところでございます。

右側の3ページを見ていただきますと、この地図は先ほどの分類ごとにどこの地域で買っているかということで、買い回り品を見てみますと、旧中津川市の中心市街地で買っている方は41.6%、郊外で26.1%と見ます。これの特徴的なものを分類ごとでこの4枚の地図を比べてみますと、買い回り品、紳士服とか婦人服といったところについては県外、愛知県、買い回り品の左下にあります。22%というところが他の分類の品目に比べて高くなっているという特徴がございますし、県内その他市町村というところも11.5%というところで、買い回り品については市外に行かれる方の割合も高くなっております。

下の最寄り品、左下のほうですけれども、こちらについては、他の分類に比べますと地域内で消費している傾向が見られます。例えば付知でいけば3.5%というところで、他の買い回り品、準買い回り品に比べれば高くなっているといった状況でございます。

4ページ以降ですけれども、中津川市内の地域交流構造がどうなっているかということでございまして、7月に市役所職員の方々に目的別に聞き取り調査を行いました。24名の方々に協力いただきました。それについて説明させていただきます。

4ページ、通勤、通学はどこに行っていますかということで、各エリア、地区の方にその地区の方がどこに主に行っていますかというような形で聞いております。これを見ますと、通勤、通学ですと中津のエリアに一極集中しているような形になっています。一方で、蛭川や阿木といったところは恵那市への通勤、通学も見られると。矢印として落合から坂本という矢印も見られますということです。

右側の買い物につきましては、これも中津に集中しておりますが、蛭川、坂本、阿木といった恵那市に隣接している地域は恵那への買い物も多い。加子母、付知、苗木等では地域内での買い物も多く見られるということです。

5ページへ行きまして、通院について見ますと、坂下、中津、恵那市といったところに病院がございまして、そこで通院されている方が多いということでございます。ただ、日々の診療所等につきましては、地区内の診療所で済まされているということでございました。

④の縁故、これは親戚や知人がどこに住んでいますかということで、知人訪問等について聞いたところでございます。これにつきましては、地域内の流動がもちろん多くなっておりまして、それと、隣接する地区の流動が多くなっています。太い矢印とはなっていないんですけれども、近隣の地区同士で縁故の交流が見られるといった状況です。

6ページへ行きまして、余暇について見ますと、余暇というのはここではいろいろありますけれども、買い物も含めて、外食も含めて、休みの日にどこに行っていますかといった質問をしています。これを見ますと、中津と恵那市、両方に中津川市民の方々は行かれているといった状況でございます。

その他市内の移動全般に関するコメントということで、住んでいる方については移動に関しては取り立てて課題を感じないという方もおりますが、坂本地区の方は南北方向の道路が弱いと。道路が狭いなといった話であったり、公共交通は幹線道路のみで、1側外側の市道、県道沿線の方々は不便だといった話やバスの頻度が少ないといった話が聞かれました。これにつきましては、後ほど説明させていただきます市民アンケートの中でも設問を設定させていただきまして、市民の方々にもこういった地域内の流動についてどこの地区に行っているかというのを把握したいと考えています。

続きまして、報告1-4、車両基地についてこちらも先ほど説明がありましたが、情報があまり公表されていない中で、今あるものということで整理したものでございます。

再度確認という意味で説明させていただきますと、車両基地というのは、この枠囲みの中ですが、中津川市内に設置されると。敷地として延長2.5キロ、幅500メートル、70ヘクタールという

ことです。車両基地の中身は車両の留置、検査、整備等を行う施設でございますので、既存の新幹線に見る車両基地という車庫と工場といったものが合わさった総合車両センターといった位置づけになるかと考えております。

2ページにいきまして、今回、中津川市に設置される計画である車両所がどのくらいの大きさかなということを表で整理したものが2ページになりまして、緑色のところにリニア中央新幹線車両基地と、下から2番目にありますが、これが70ヘクタールということで、参考までに中津川中核工業団地を見ますと75ヘクタール、ほぼ中核団地と同じような広さの車両基地ができてくると。

従業員はどのぐらいなのかということで、参考までに一番上の東海旅客鉄道浜松工場を見てみますと、ここは1,500人と一番右側に書いてございます。これは社員で見ますと700人です。1,500人というのは関連会社や協力会社を含めた数字になっております。このような車両基地で、従業員の数と比較して想像するというような形になってくるかと思えます。

3ページ、4ページにつきましては、その航空写真であるとか、内容を詳細に整理したのですが、割愛させていただきます。

報告1-5になります。リニア開業時の社会情勢ということで、リニアが開業したときに中津川はどういう位置づけになるのかというのを整理したものです。

まず、下の図1を見ていただきますと、まず、中津川市というのは名古屋市と約1時間で鉄道で結ばれています。東京から見ますと、東京-名古屋が新幹線で1時間40分で結ばれている。こういった今の位置関係にございます。そのときに首都圏の方々が3,600万人いまして、東濃、飛騨というのが50万人、そういった大きな大都市というものがこういった距離感にあると。

リニアができますとどうなるかということで、2ページをご覧いただきたいと思えます。

まず、東京-名古屋間を見ていただきますと、リニア中央新幹線でご案内のとおり40分で結ばれるということでございます。

まず、名古屋についての位置づけを確認しますと、左下のボックスになりますけれども、名古屋はどうなるかといいますと、同時被災の可能性が東京と名古屋は直線距離で260キロありますので、首都直下型地震等の同時被災はございませんので、首都のバックアップ機能を持った都市として位置づけられますし、名古屋が西日本の玄関口となり、都市機能が高まってくるだろうと。名古屋というのは大都市でありながらゆとりがあり、周辺に豊富な自然資源があるといった特徴を持った都市でございます。

中津川市はこの名古屋と東京の関係の間に入っておりますので、2つの位置づけを持つことになります。中津川市の特徴としまして、豊富な自然資源、歴史文化を保有していますし、市内周辺地域に観光資源が点在していますと。

そういったところで名古屋の方面を見れば、ものづくり地域の一角でございますし、名古屋まで10分の利便性、名古屋圏の奥座敷でございますし、名古屋の都市機能が上がれば中津川市のステータスも上がってくるだろうと。名古屋都市圏の一員としての位置づけが高まるだろうと。

こういった一面があるのと同時に、首都圏とも40分から60分でダイレクトに結ばれます。そうしますと、首都圏の方がスーパー銭湯でも岐阜県に来るということであれば、大きな観光ボリュームが発生するだろうと。首都圏の大きな活力を受け入れる地域としての位置づけと、こういった両面があると。この両面をにらんだ上でのまちづくりを考えていくべきではないかということでこの資料を作成させていただきました。

以上です。

【委員長】 どうもありがとうございました。

報告事項1となっておりますけれども、中身が大変盛りだくさんというか、多様なものがございしますので、中にはちょっとここでいろいろご質問やご意見をいただいたほうがいいかもしれません。

順次処理してまいります、今、資料で報告1-1、1-2を使いまして説明いただきました第1

回の策定委員会の記録につきましては、これはもう皆さんにお目通しいただいて公開にしているわけですので、これはご了承いただいてよろしいですね。特にご異議ございませんね。

それでは、次に進ませていただきますが、報告1 - 3、地域間交流等についてというのは、今ご説明がございましたように、これから住民アンケート調査をかけることによってもう少し補完していきたいと思うんですが、今のところ、既存の資料並びに役所の方々からヒアリングいたしまして、こんなことではないかというのを図面にまとめてみたわけですが、これ、ちょっと大事でございまして、皆さんの中でこれはおかしいんじゃないか、このあたりは違和感があるなというふうに感じられる方がいらっしゃいましたらご指摘いただくと、この後、調査に非常に参考になりますので、いかがでしょうか。まあ、大体こんなものでいいということでしょうか。厳密に調べるのは大変難しいんです。ですから、そういう意味でいけば、皆さんのほんとうに直感で結構でございまして、直感でおかしいというところがあれば、これ、ちょっとおかしくはないかというご指摘をいただくとありがたいんですが、いかがでしょうか。

1ページ、2ページ、それから、3ページあたりは一応データがございましていいんですけれども、問題は4ページ、5ページ、6ページですね。この図面で、ちょっと自分が住んでいるところの感覚からいくとおかしいなということがありましたらご指摘いただきたい。よろしいですか。

特にお手も挙がりませんので、一応こんなふうに把握していると。これをあとはアンケート調査で裏づけをしてまいりたい。この資料の使い方としては、現在こういう交流行動になっているものを今度のリニア新幹線の駅ができることによって、それがどう変わるであろうかというあたりのちょっと予測を検討してみようかということでございます。あるいは、皆さんのご意見を次回ぐらいですか、いただきたいと。こういうふうになるはずだというような、あるいは変えていきたいねというようなご意見を伺えればと思っております。

それでは、これはよろしゅうございますね。

じゃ、次に、1 - 4の車両基地についてでありますけれども、これは今も説明ありましたように、なかなかJRのほうから確とした情報が出てまいりません。JRのほうもまだほんとうに予測のつかないところがあるようでございますが、今、いろいろ類似の施設の資料を集めてみたというのがこの資料でございます。この点、何かご質問はございませんでしょうか。

私が耳に挟んでいるところでは、この中津川市にできる総合車両所といいますのは2つの機能を持っておりまして、1つが車両の維持、補修の基地であります。それから、もう一つは、運用所というか、運転所といいまして、毎日、夜、車両を引き揚げてきて、車庫の機能と2つ重なるということでございます。磁気浮上式の列車と、それから、現在の新幹線とちょっと機能が違うんでありますけれども、ここにあります東海道新幹線の浜松工場がこの維持、補修、検修の工場としては参考になるのではないかという話を聞いております。それから、車両所のほうにつきましては、ちょっとこの規模がどのぐらいになるかわからないんですけれども、小さいものとしては名古屋駅のすぐ北になりますか、庄内川のところに日比津の車両所というのがございますが、あれが一番小さい。あれよりはちょっと大きいだらうと。しかし、現在ある車両所はかなり大きいのが多いものですから、なかなかどの程度かというのは見破るのは難しいわけですね。しかも、大阪まで全線開通するときにはこの車両所の機能は大分小さいものになる。だから、開業後15年の間はここが車両所として、フル稼働すると、こういうことでございます。

これは皆さんに対する情報提供のつもりの資料でございます。何かご質問があれば承りますが、いかがでしょうか。まだ曖昧な情報でございまして、それでご質問もないかもしれませんね。

それでは、これは終わらせていただいて、次に、報告1 - 5、リニア開業時の社会情勢について、これは前回の議事録を見ていただくとわかると思いますが、私のほうからお願いして、絵で見ていただくと中津川の状況がどう変わるかというのがわかるようにしてくれないかということで描いてもらったのであります。いかがですか、何かご質問。かえって単純化し過ぎて、簡単化し過ぎておわかりいただきにくいかもしれませんが、いかがでしょうか。このあたり、確定した図面ではございませんで、

皆さんから出てくる質問なんかを受けて、もっとわかりやすいものに、私もまだこの図面は不満でございます。もう一度後で作業班のほうに注文をつけたいと思っておりますので、皆さんのほうから注文があればお聞きしておいて、一緒に処理してもらおうと思っておりますが、いかがですか。

【副委員長】 ちょっといいですか。

この1 - 5、開業時の社会情勢というところで、大変私は気に入らないと申しますか、中津川の位置というものがどういう形になるかということ、何か、名古屋の奥座敷、それがどうしたのと、何で奥座敷になるのと。首都圏、東京との中津川の位置づけというものをもっとここで考えていかなければ私はいけないと、こういうふうに思うわけです。

ということは、名古屋が関西圏の東京を含めた玄関口という言い回しも何ともかんと、もっと私は中津川の位置づけというのは東京との関係、名古屋はもともと、昨日も三河東美濃連絡道路の総会で青山市長が大変いいことをおっしゃっておったんですが、あるマスコミから質問を受けたと。中津川から見た中部圏という言葉はどうですかということに対して、名古屋圏という認識は大いにあるが、中部圏という認識は全くないというお答えをされた。なるほどまい表現だなというふうに思ったんですが、この中津川の位置づけというのは、飛騨路、あるいは木曾路との関連ということ、もちろん名古屋との関係も大切でしょうが、もちろん東京、首都圏との関係、ここをどういうふうに中津川が生きていくというか、発展的に考えていくかということ、もう少しここを掘り下げていただきたいなど、こういうことを思いますし、私たちももっともっと深掘りしていく必要があるかと、こういうふうに思うわけです。

ついでに、マイクをいただいたついででございますので、突拍子もないことをちょっと1つ申し上げたいわけでありまして。

1つはJRの駅とトイレということで、随分古い話になりますが、中津川商工会議所、4代ほど前の会頭が必死になって中津川の駅にトイレをつくる活動をしておりまして。このトイレを1つつくるのに大変ご苦労された。そして、今のトイレの位置があるということでありまして。時代は変わって、トイレに対する考え方も変わってきたものですから、多治見駅にはトイレがJRの構内にできました。これも時代の変遷かもしれませんが、この中津川の駅の土地の所有者はJRなんですね。建物の所有者は中津川市が持っておるわけです。そして、この土地の借り賃はJRに払っておると、こういうことでありまして。土岐市の駅は(岐阜県から)無償で借り受けておると。瑞浪市のJRの所有地は有償で借り受けておると。この現実もリニア等を議論していくときに、駅のトイレというのは、いささか異様な表現かもしれませんが、これぐらい事ほどさようにトイレ1つとっても非常に私は問題意識を持っておると、こういうことでありまして、もっと単刀直入に申し上げたいわけでありまして、ちょっとこの程度にさせていただきたいと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

トイレを例にとっておっしゃったというふうに私は解釈しておりますけれども、非常にわかりやすい例だと思います。ほんとうにこれはいわゆるルールはないんですね。交渉次第でどうにでもなるところがあります。

ただし、最近、駅の外にあるトイレというか、改札口の外にあるトイレはJRは一切知らない。自分のところのお客さんのトイレは改札口の中できれいなものをどんどん整備する。それは自分のところで管理してということをはっきり打ち出してきておりますので、そういう変化の中でどう解決していくかというのはこれからの交渉事だと思います。それが要するに一事が万事でございまして、今度の新駅の問題なんかも、おっしゃるように筋を通した交渉が大変重要になってくると、こういうことだろうと思っております。

その件につきましては、後の議事のほうに今のご発言を記録としても回していただいたほうがいいかと思いますが、また後でそれは処理させていただきます。

前のほうでお話しになりましたことは大変重要なことございまして、この中津川というのがどういう位置づけになってくるか。このあたりをどう見極めていくかというのがこの委員会として非常に重要でございます。今の副委員長のご発言のようなのが出てくることを期待してこの絵をたたき台としてかいたわけございまして、大変重要なご発言をいただきましたが、今のご発言に対して、また、他にご意見がある方はいらっしゃいませんか。

どうぞ。

【委員等】 今、飛騨路という話がありましたけど、あるいは木曾路という話がありましたけど、木曾路はまだ中央線がありますからアクセスもありますけど、飛騨路はないんですよね。ところが、じゃ、飛騨からどこへ行くかと、北陸新幹線へ行くよりはこっちへ来たほうが近いということですので、道路もいわゆる一級国道がないということですので、ちょっと開通までの間に時間がありますから、その間に整備を何か考えていかないと、中津に泊まってもなかなかここまで来られない、名古屋へ行っちゃうというようなことになったら何もならんし、それよりも1時間足らずで東京から来られるといういろんな人たちが飛騨路や信濃路、あるいは、また、南のほうも同じことですけど、そこへ行ったり来たりということをしてないと価値がないなとつくづく思います。

今回は中津川市のメンバーですけど、お隣の恵那市、あるいは加茂郡とか、あるいは下呂市、高山の辺まで同じ恩恵に浴するようになるものですから、何かその辺ももうちょっと具体的にとらまえていかないといかんのかなというふうに思います。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

おっしゃるとおりですね。こういう議論をするときは中津川の地元の話はまた後でやればいわけでありまして、この場合は岐阜県全体を視野に置いて、どの地域がこの駅をよく利用するようになるか。それで、利用したときに名古屋方へ行くのか、それとも東京方へ行くのかというあたりをいろいろな地域の、例えば岐阜県の中の西濃地域の方々はここは使えないと。名古屋へ行くほうがずっと便利であるから名古屋へ行きたいということを言っておられるわけでございますから、そのあたりのところがわかるようにこの絵を描いてみたいんですけどね。まだ、おっしゃるように、ずばりそれがわかるようになっておりませんので、もうちょっとこれから考えてまいります。

他にご意見のある方はいらっしゃいませんか。

【副委員長】 今、副委員長の言われたこと、それから、委員の言われたことと関連する中でございますが、昨日、やはり三河東美濃連絡道の総会がありまして、そこに出席させていただきましたが、これはリニア開業時の社会情勢ということに限定をされておりますが、何とかそういう、もっと、いわゆる三河、もっと言えば、渥美半島を結んだ、そういうものがここで、例えば今、岐阜県だけを考えれば飛騨路、奥から来て、この中央道へ来てどん詰まりになるんじゃないかと、さらにこれを三河、もっと渥美半島に結べていくような、関連づけさせながら考えていくともう少し夢が描かれるんじゃないかということを私は思います。特に開業時というふうになると、それは壮大な夢でもっともっと先になってしまうかもしれませんが、そういうことも念頭に置いて考えていくとこの地域づくりというのがもう少し夢が出てくるんじゃないかなと、こんなふうにはちょっと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

ただいまのご意見も参考に、この後の作業を続けさせていただきます。

他にご発言のある方はいらっしゃいませんか、この問題に関して。

この図面をかいていただいた私の趣旨をちょっと補っておきたいと思っておりますけど、2ページ目の裏のほうの図面ですけど、中津川市の真ん中に白い縦の棒が入っておりますけれども、これは中津川の

考え方としては二正面作戦が必要になるぞということを言いたかったわけでありまして、ちょっとこの縦の棒だけでは二正面作戦の意図があらわれていないのかもしれないかもしれません。

といいますのは、どういうことかといいますと、東京に行きやすくなる、これは確かであります。東京に行きやすくなることを大いに利用する。しかし、東京に行きやすくなるというよりも、東京から来やすくなるということを重視すべきで、首都圏の人たちをどのぐらいこの地域に引き込んでくるか、その玄関になるぞというのが一つの、二正面のうちの二正面であります。

それから、もう一つは、この地域の人たちの生活、暮らしぶりがどう変わってくるか、どう影響を受けてくるかという点について言うならば、あまり私は、東京が近くなる、だから、東京へがまん行くようになる、あるいは東京との間が通えるようになるとか、そういうことをあまり過大に期待すべきではないんであるかと思っております。やはりこの地域は何といいますが、先ほどお話がございましたが、名古屋圏の中で重要な生活圏を構成しているわけでございますし、経済活動も構成しているわけでございます。何と云っても、名古屋圏の繁栄とともにこの東濃地方の恵南、恵北の地域の繁栄はあるわけでございますから、そういうことも認識しなければいけない。つまり、名古屋のほうはもういい、うちは東京と直接取引をして東京とやり合うんだと、こういうふうに絞ってしまっはまずいのではないかとということであります。

ところが、名古屋というのは、今度のリニア新幹線ができることによって東京との一体化が進んでまいります。これは名古屋都市圏全体の問題でございますけれども、それでいいのか。それだけではなくて、やっぱり名古屋らしい名古屋都市圏というのができなきゃいけないだろうということを名古屋の講演会なんかでは私は話をさせていただいております。名古屋も繁栄するわけであります、今より。そうすると、その繁栄した名古屋都市圏の中のこの恵南、恵北地域というのは重要な位置づけを持った地域でなくてはいけない。それを奥座敷と表現したのは、今、副委員長がおっしゃいましたように、適切でなかったのかもしれない。奥座敷というのはそういう私の言いたかったことをあらわしてくれてはいないのかもしれませんが、私が思いましたのは、名古屋都市圏の中で重要なしかるべき位置づけをこの地域が得なければいけないということを言いたかった。それがもう一つの正面。つまり二正面作戦を立てていかなきゃいけません。逆に言えば、東京首都圏の観光客を中心としたお客さんがこの地域に入ってくる。そのときは名古屋を回っていただく必要なんかないわけでございまして、直接受け入れ口にならなきゃいけないと、こういうことです。

そういうことをあらわしたかったわけでございますが、今ご意見をいただいた点はみんな重々ごもつもの意見でございますので、そういうことも勘案しながら、この絵をよりわかりやすく、より誤解がないようにブラッシュアップしてまいりたいと思います。

この点、よろしいでしょうか。この件について何かご発言はございますか。

【委員等】 名古屋は今でも車で1時間で行けますから、別に新幹線に乗らなきゃならん必要は何もないし、そして、車で行かなきゃできん用事ばかりですので、それは大したことはないと思うんですよ。それよりもその先の大阪と1時間で結ぶということが大事だと思うんです。

今回は、名古屋とはもう身内同士ですから、それはもう当然のことですけど、繁栄はですね。そうじゃなくて、関東から今は名古屋を経てこなきゃ来られんという非常にへんぴなところになってますけど、今度は直接来られますので、そうすると、例えば学校でいいますと、こちらから向こうへ生徒が行くことも簡単ですけれども、また、こちらの学校が充実して、そうすれば向こうから来るのも簡単ですし、土地も安い、山紫水明で土地も安い、広い、あるいは気候もいい、日本の中心であるということでもどこからでも来られますので、例えば学校関係、大学関係でも非常に可能性は多いと思いますし、観光が一番多いと思います。それは中部山岳という非常に東北へ行ってもない、中国地方、四国、九州でもないような中部山岳を持っていますので、これはこれでまたすごく大きな魅力だと思いますし、これが今バスで時間をかけて来るのを新幹線で来てということになりますので、それ以上にいいと思います。

その他、私は学校も含めて、科学技術等のいわゆる知識の集積というのをこの東海地方でやればいいんじゃないかなということをつくづく思っていますけど、名古屋は今までどおり、名古屋でそれ以上いろんなものをつくるといったってもうできませんので、だから、やっぱりこの中津川を中心としたところが飛躍的によくなるというふうに思っておりますし、私も関西も関東も仕事をさせてもらっていますが、少なくとも関東も関西も、こんな中津川か加子母かという遠いという意識なんですけど、今度、来てみたら近かったやないかということになれば、それはそれでまた全く違った感覚になりますので、少なくとも関東、関西の人たちが身内にできるなというふうに思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。
何か関連して、ご発言はありますか。
じゃ、副委員長をお願いします。

【副委員長】 この報告の1 - 5のリニア開業時の社会情勢ということなんですけれども、前回の委員会するときにも少し発言したかもしれませんが、人口がやはり今と15年後は随分違います。労働人口の分布なんかも変わっておりますので、そういうものがやはり1つの大きな社会情勢になりますので、そのあたりもこういう資料の中に入れていただければありがたいなと思います。

【委員長】 ちょっとここに書いたポンチ絵にこだわり過ぎていたようですけど、そうでないところで大事な情報をもっと盛り込めと、こういうご指示でした。どうもありがとうございました。
それでは、あまりここで議論に時間を費やしてもいけませんので、この議論はこれで終わらせていただいて、次の報告に行きたいと思います。
報告事項の2でございます。各種委員会の取り組み状況について、委員会の委員長からそれぞれご報告をいただくことになっております。
初めは、地域委員会及び地域協議会の取り組み状況について、地域委員会の中島委員長からお願いいたします。

【委員等】 まだ各地域で具体的にアンケートもとっていないしということですが、地域がずっと中津川全般にありますので、そこで地域の意見なり考え方なりをいただいて、それを取りまとめていくということです。ただ、時間がないものですから、早急に進めていかなきゃならないということです。
そして、また、例えば加子母地域でいきますと、今、特に商工会の青年部、商工会が具体的にもっとプランをつくるということで今、明日の晩、加子母は集まるようになっていきますけど、地域で特に、68歳の私がとやかくじゃなくて、もうちょっと若い連中が、15年先の話ですので、今からどんどん積極的に責任を持ってやっていくのがいいかなというようには思っておりますが、ここにずっと挙げておるとおりでございますので、よろしく申し上げます。

【委員長】 委員の方々からご質問もあろうかと思っておりますけれども、もう一つ委員会がございまして、そちらの報告もあわせてご質問、ご意見をいただくことにいたします。
女性・若者委員会の取り組み状況について、女性・若者委員会の前田委員長からご説明をお願いいたします。

【委員等】 女性・若者委員会の委員長の前田です。よろしくお願ひいたします。
先般、ここに書いてありますイメージする理想のまち、ライフスタイルという題ということで、これに対して女性・若者委員会の委員が集まりましていろいろな意見を取り込みました。ただ、委員だけではなかなかいろいろな意見が出ないということで、あらかじめこれを委員に配っておきまして、

いろいろ広く女性の方、若者の意見をまとめて、それを持ってきていただいて、先日、こういう形でワークショップテーマということで3班に分かれていろいろな意見をさせていただきました。それに関して、リニア効果を活かしてどういうふうになっていくんだろうということで、今、まとめているところでございます。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、この2つのご報告に何かご質問、あるいはご意見のある方はいらっしゃいませんか。

それでは、ちょっと私からお聞きしたいんですけど、両委員会、先ほど、冒頭で私、ごあいさつで申し上げたような不安といいますか、新しいこういう先端技術の列車が走ることについての環境問題ですとか、そういうようなことの不安という意見はこのレジュメというか、まとめたものには全然頭が出ていないんですけど、そういう議論は出なかったのでしょうか。前田委員のほうからちょっとお答えいただけますか。

【委員等】 委員長から言われた意見というのは特別出ませんでした。ただ、トンネルを掘るといって、トンネルの中に何かまざっている可能性、土が出てくる、土砂に何かまざっているものがあるのではないかという意見は出てきましたけど、それに関してということは特別ありませんでした。

【委員長】 中島委員のほうは特に何かございませんでした。

【委員等】 まだそこまで話が行っていませんので、それは電磁波の話だとか、それから、地中の毒性のものとかというような話は出てくると思いますけど、まだ何もそこまでいっていないんですよ、実は。だから、早くやらないかんといいは思っています。よろしくお願いします。

【委員長】 他に何かご質問、あるいはご意見はございせんか。今後のこの両委員会の進め方について何かご意見がある方がいらっしゃいましたら、この際言っておいていただくといいと思うんですが、よろしいですか。

それじゃ、この報告事項2についてはこれでお聞きしたことにしていきたいと思えます。

それでは、次に移りまして、議事に入らせていただきます。

議事1のビジョン策定委員会幹事会に部会を設置することについてでございます。資料1を使いまして、事務局からご説明いただきます。

じゃ、お願いいたします。

【事務局】 それでは、ご説明を申し上げます。

その前に、報告2-1のところでは幹事会の議事要旨を載せてございますので、掻い摘んでご説明を申し上げます。

先般、7月24日でございますけれども、策定委員会の幹事会を開催いたしまして、こうした幹事会の位置づけについて議論をいたしました。後で議題の議事のほうの2で出てまいりますけれども、いろんな課題整理ということで多岐にわたるといってございまして、そうしたものをこういった幹事会の多くの委員の方で同時にやっていくというのは非常に時間的にもロスがあるだろうということで、2部構成にしたかどうかというようなことをご提案させていただいております。

それから、2番目のところでございますけれども、坂本地域のほうで坂本地域のまちづくりビジョンという提言書をまとめていただいております、そうした中、そうした資料もご提供いただきながら、駅施設などの建設、土地開発に伴う都市化が過度に進行しないように配慮していただきたいとい

うようなお話がございました。それから、ビジョン策定の進め方としまして、リニア駅の開業が過大評価される傾向にあるけれども、冷静に議論していく必要があるだろうと。それから、駅周辺においては可能な限り自然環境を残していくことがよいと。それから、駅が設置される坂本地区をはじめ、市全体が飛騨、恵那、南木曽、そういった地域と連携して議論を重ねていくことが大事であろうというご意見をいただきました。

それから、3番目に、各種アンケートということでまたご説明申し上げますけれども、そういった中でいろいろな、読みづらいとかもう少し工夫をするべきだということがありまして、幹事会にご提示したのから改良を重ねて本日ご提案をさせていただくところでございます。

それでは、資料の1のほうをまたご覧いただきたいと思えます。

これは今申し上げましたように、右の上段のところに策定委員会の幹事会という部分がございます。従来はこの下の産業部会、まちづくり部会という四角はありませんでした。そこを産業関係と、いわゆるまちづくり関係ということで、2つに分けて議論をさせていただきたいということでご提案を申し上げます。

それから、少し戻っていただきまして、先ほどの報告2-1のところの1枚はねていただいたところにちょっと戻っていただきまして、幹事会部会構成案というものが示してございます。よろしいでしょうか。産業部会とまちづくり部会ということで四角で囲ってあるものでございます。

産業部会につきましては、農業、林業から地場産品等の産業分野について、それから、まちづくり部会としましては、自然環境、歴史文化、そうしたところから安全安心というまでを議論していただく形をご提案申し上げたいと考えております。基盤関係につきましては、それぞれの部会が担当していただく分野と絡めた視点で、そのために必要な基盤整備のあり方というものをご議論いただければありがたいというふうに考えておるところでございます。

また、それぞれの部会に部会長を置くことといたしまして、産業部会には中津川商工会議所の井口常務理事様に、それから、まちづくり部会では中津川市区長会連合会の大前副会長様をお願いするというご承認をいただいております。

また、もとの資料の1のほうに戻っていただきまして、後ろにA3の横長のちょっと細かなもので恐縮ですが、リニアのまちづくりビジョンの策定スケジュール（予定）というものがございます。よろしいでしょうか。

これは部会設置に伴う幹事会のスケジュールを若干見直しまして、地域委員会、各地域の協議会、それから、女性若者委員会のワークショップ等の議論の整理手順を組み立て直したところでございます。次回11月に予定しております本策定委員会の第3回目までの間に2回程度、部会兼幹事会というものを開催して、課題整理、そういったところでいろんなご提案をいただきたいと考えておるところでございます。なお、策定委員会の工程につきましては、第1回の策定委員会でご承認いただいたものと変わりはございません。非常にタイトな工程となりますけれども、若干いろんな調整は出てくるかと思っておりますけれども、頑張って整理をしまいたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

【委員長】 ということですが、この幹事会に部会を設置するという案件について、何か今の説明にご質問、あるいはご異議ございますか。特にございませんでしょうか。

それでは、この幹事会に部会を2つ設置することについてご承認いただけますか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 ありがとうございます。それでは、部会を設置させていただきます。

それで、今、部会でこういうことをやりたいということスケジュールも含めて説明があったわけですが、これについて何かご注文がございましたらご発言ください。いかがでしょうか。

じゃ、特にないようでございますので、この議事1は幹事会に部会を設置することについてお決めいただいたことにいたします。

それでは、続きまして、議事2でございます。リニアの波及効果を生かす取り組みの検討についてに入ります。資料2を用いまして事務局から説明いたします。

じゃ、よろしく願いいたします。

【事務局】 それでは、ご説明を申し上げます。

資料2のリニアの波及効果を生かす取り組みの検討という資料をご覧ください。

この案件が本日の議論の中心となるものと考えておりました、リニアの具体的な活用方策を導き出すための切り口をご提示申し上げてございます。大きく区分しまして、訪れてよし、住んでよしと、そうしたまちづくりに必要な基盤整備という3つの切り口でご検討いただくという考えを示させていただいております。

1枚撥ねていただきまして、2ページをお願いいたします。

検討に当たりましては、リニアの波及効果を活かすためにどんな準備が必要か、そして、開業以降において実際の波及効果を活かしたどんな取り組みができるかという視点で議論の中心となると思われる課題を分野ごとに提起させていただいたところでございます。こうした問いかけに加え、様々なキーワードを列記し、議論の呼び水といたしましたけれども、これに捉われることなく、いろんなご検討をいただければというふうに考えておるところでございます。

また、既存の地域資源や特性を磨いて活用していくというような従来のまちづくりの観点に加えて、全く新しいものを大都市圏から呼び込むというような、リニアがあつてこそ初めて可能となるような事柄もご検討いただければというふうに考えております。

順にかいつまんでご説明を申し上げます。

まず、農業、林業につきましては、誰をターゲットにどのような戦略で売り込んでいくか。それから、また、観光とどう組み合わせる売り込んでいくか。また、後継者確保、耕作放棄地、荒廃山林、そういった対策にどう結びつけていくか。

また、工業につきましては、市内企業の活力アップをどう考えていくのか。それから、企業誘致など、特に車両基地の設置効果、そうしたものとどう絡めていくかというところがポイントになると考えております。

3ページをお願いいたします。

商業、サービス業につきましては、新駅周辺の商業機能の在り方、特に中心市街地や周辺地域の既存商店街の商業機能と絡めた整理が必要であろうと考えております。また、観光客と絡めた戦略、例えば地場産品をどう売り込んでいくかということなども検討の重要なポイントとなるかというように考えております。そういったご意見も第1回のところでいただいております。

それから、自然環境や歴史文化につきましては、誘客や移住、定住にどう活かしていくかという側面もございまして、そうした自然、歴史というものをしっかり保全していく、そうしたための担い手育成等後世に引き継いでいくというような、そういった側面から整理をしていくことが必要というふうに考えておるところでございます。

4ページをお願いいたします。

人づくり・人育てにつきましては、まず、教育レベルの向上、人材育成、また、生涯学習などの機会充実、そういったものを波及効果と絡めてどうやっていくのかといったところが大事かと考えております。

また、住宅・住まい方につきましては、誰をターゲットに何をアピールして売り込んでいくか、それから、住んでいただくかと、そういったところを考えていく必要があるだろうと。

それから、安全安心につきましては、医療、福祉、防災、子育てと多岐にわたるものでございますけれども、中津川に移り住んでいただけるよう、また、市民の皆様が住み続けたいと思っただけ

るような様々な分野の安心を高めていくことがポイントと考えております。

例えば医療でございますけれども、いくら自然環境がよくても医療に不安があるようでは、市民の皆様が安心して暮らしていくことはもとより、中津川に移り住んでいただくために非常にハードルが高くなるというふうに考えております。そうした意味において、開業までに医療の安心をさらに前進させておく必要がありますし、これはリニアがあるなしにかかわらず進めるべきものでございます。そうした側面からの整理がまず1番にあると思います。

そして、もう一方の切り口といたしまして、開業以降にしか発現しない効果でありますけれども、開業により首都圏や名古屋圏との往来が極めて短時間で可能となりますので、医師等医療関係者に来ていただきやすい環境になるわけでございます。そうした状況を睨んで、医療関係者に来ていただくためにどのような環境づくりが必要か、そういったような組み立てが必要になるかというように考えております。こうしたことは表裏一体の事柄ではございますけれども、そうした視点を持っていただければ、あらゆる分野の事柄について同様に深くご議論いただけるのではないかと考えております。

そして、最後の基盤整備でございますけれども、基本的には新駅周辺整備、アクセス整備、在来線ダイヤ、駐車場、二次交通等の検討というのがポイントになってくるというように考えております。県の活用戦略研究会の基盤整備部会において、来年早々、駅周辺整備の方向、アクセス整備の方向というものを示したいというようなご意向を持っておられるようでございますので、そうしたことも踏まえまして策定委員会にてご検討いただいて、岐阜県さんのほうで組み立てていただきますそうした案に盛り込んでいただくような形で進めていく必要があるというふうに考えております。

ただ、駅や車両基地等の詳細位置の情報がないということで、そういった制約が多くございますので、手戻りのないよう機能論を中心に整理をして、アウトプットとしましてはイメージ図、いわゆるポンチ絵というような形でご提案していくような形になるのかなというようなことを考えておるところでございます。

以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの議事2、波及効果の検討の方針ということですか、これについて何かご質問でも結構ですし、こうやるべきだというご提案があればお聞きいたします。いかがでしょうか。

【副委員長】 私、商工会管内を管轄しておりまして、今回に至るまでに私どもの地域で5支部、5つの支部ごとに市のほうの協力をいただきましてこのリニアについての説明会を開催してまいりました。その中で共通しておったことは、まず、説明会をやりますと、私ども、恵北地域に位置しておりまして、まず、15年先の話じゃないかということで、まずピンとこない、そういうのがまず潜在的にありました。

そして、もう一つは、リニアのお客さんが降りたところで坂本にもし駅ができて、その周辺のことじゃないのかということで、どちらかというと、他人事であったというふうに思っております。

そうじゃないと。そうではなくて、これをきっかけにしてどんな地域をつかっていきたいかということが大事なんだと。それを具体的に行動していくことが大事なんだということも市のほうもしていただきましたし、私どももしてきました。そうすると、ある意味では、なるほど、そういう切り口でというような感覚も生まれ始めたと感じております。

そういう部分でいきますと、今回のこのいわゆるリニアの波及効果を生かす取り組みの検討という部分には、ぜひそういう部分がどうしても白けていとなかなか意見が出なくて、上滑りをしてしまうような感じがしますので、ぜひこの部分の自分たちがどういうふうに、リニアの効果とはこういうことなんだと、そういう部分をぜひ啓蒙していく必要があるだろうと。そういうところからこの内容の説明に入っていくと、まず耳が塞がって聞けない状況の中で説明だけが進んでいくような気がしますので、ぜひそのあたりも時間がないかと思いますが、そういう部分の努力もひとつお願いを

したいと、こんなふうに思います。

【委員長】 ありがとうございます。
これはお聞きしておいたらよろしいですね、今のご意見はね。

【事務局】 はい。

【委員長】 他にご発言はございませんか。
どうぞ。

【委員等】 発言してばかりしておいて申しわけございませんが、ここで今いろいろ直接もうすぐひっかかってくるのが農地の農振地域の除外だとか、農地が自由に使えないということ、それから、林業も保安林は自由に使えないということ、そして、これからずっとこの地域を総合的に開発していくとすると、今までと同じように農業と林業の保護だけを考えておるととてもできんなどということをおもっています、その辺もひとつアピールをしてほしいと思います。

【委員長】 それ、方針としては一番大事なところですね。これ、今どう考えているかというのを説明できますか。

【事務局】 これはあくまで私ども事務局としての単なる考えでございますが、基本的にはリニアが来ることによって、従来ではこうしたいろんな観光とか、こちらに来ていただく方も少ないと、そういった中で、どうしても大胆なそういった施策というのが打てないというところがありました。

過大にそういった期待というのはいかなものかということもございませけれども、そういった首都圏から何割かの人を呼び込む。それから、観光の中でもいろいろな産業観光的なことをやっていく。それから、体験型の農業、体験型の林業、なかなか実際には難しいところもあるかもしれませんけれども、そういったところを絡み合わせていくことによって、いろんな農業、林業が思いもよらぬ形で動いていくんじゃないかと。そういったことによって後継者育成、それから、担い手というものができてくるのかなと。そういったところも非常に青い話かもしれませんが、少しずつでもこういった道筋を立てて、50年、100年というようなスパンで物事を考えていくという切り口は必要じゃないかというように考えておるところでございます。

【委員長】 ありがとうございます。
事務局で今はこう考えているというご説明でございましたけど、この点について他に意見のある方はいらっしゃいますか。

【委員等】 非常に歴史的な魅力、いろんなところが中津川にあるんですが、現状はここ尻下がりで観光客が落ちているんです。リニアが開通したときに本当にお客さんが見えるだろうかという不安がいっぱいなんです。よほど本腰を入れないと、お金を使って中津川へ来ていただける、こういうものがいないんじゃないかということで、本当にどんどんどん今は落ちている状態なんです。

ところが、特産品、ブランド品は昨年50万人ほどの方がお見えになっているんです。非常にそういう買い物、あるいはそういうブランドを求めて来られる方は非常に増えています。ところが、名所旧跡、そういう施設、あるいはどんどんどんそういうものが減っているんです。結局、そういうことで、このままこの計画が本当に実施されないと本当に落ちていっちゃうということで、何か本当に本腰を入れてできるものからやっていただく、こうでないと非常に不安ではないということ、今思ったんですが、いろんな案が私にはありますけど、今はちょっと言えませんが、とにかく本当

に本腰を入れないと果たして見えるのかなということに不安がいっぱいですね。

【委員長】 ありがとうございます。

他にご意見のある方はいらっしゃいませんか、この問題に関して。

今、観光の方では、そういう素材もだんだんなくなっていく。あるいは、観光客自体も今減っているんだよという指摘がございましたけれども、私、先ほど申し上げたように、あちこちで講演させていただきながら皆さんの意見を聞いていて最近思っておりますのは、やはり地元の方々というのはその地域の歴史遺産とは限りませんが、自然の景観であっても、あるいは今グリーンツーリズムなんて言いますが、農村景観、あるいは山村の生活であっても、意外に地元の方たちはその魅力に気がついておられないところがあるんですね。

何度も申し上げますけれども、首都圏の人は何と云って5,000万から人がいると言われていいますから、その人たちのうちの0.1%が動いたって5万人になるんですから、そういうあたりのところに対して地元の魅力はこういうところなんです、こういうことがありますよと訴えていく。彼らの関心は何だろうと考えながら地元の魅力に気がついて、それを守り育てていくというのか、そして、それをできれば観光商品に組み立てて売り出していくというようなことが必要ではないかと私も思っております。

この委員会はそういうことをみんなで気がつくきっかけを見出すような会議でありたいと、私は思っているんです。ですから、お気づきの点がありましたら、お互いにお宅のまちなあれはいいよねとか、こういう産業、物産がこの頃ちょっと注目されているんだよ、というようなことをできるだけ、（ここで皆さんにうーんと腕を組んで考えて順番に発言していただく時間はございませんけれども）いつでもお気づきになったら、事務局のほうにコメントというか、メモを集めるというようなことをやったらいかがでしょうか。ちょっと私のほうからそういうのを提案させていただきたいんですが、それは大事なことだろうと思います。

それから、先ほど事務局のほうからお答えがありましたけれども、農地とか山林を大々的に開発するというか、市街地開発をして、地目変更をして、あるいは農振の解除をして開発していくと、そういう議論には多分ならないだろうと思うんですね。むしろ今お話ししたように、農業を今やっておられるところ、農地、林地の中で、いわゆる滞在型、体験型の観光を考えていくとか、そういうことがこれから大事なんだろうと思います。

その問題ですと、別に新たに市街地を開発しなくても今の中でやっていける。そのほうが自然保護とかそういう問題ともうまくマッチしていくのではないかなというような、これは私の個人的な考え方ですけれども、そんな考え方しております。

だから、波及効果をうまく使うというのもそういう観点からやっていって、結構使い道はあると思うんですね。いかがでしょうか。こんな意見に対して何かご意見があれば伺いたいです。

【副委員長】 観光ということで、どういう認識で観光という言葉を使うかということが非常に大事なんです、ちょっと古いデータであります、岐阜県内の3年ほど前のデータでありますので、それから数字が大分変わっておると思いますが、岐阜県内で一番多くの、これ、観光地と書いてあるんですね。私の持っているデータで、土岐プレミアム・アウトレットが430万人と。これ、観光なのか、ようわかりません。2番目が河川環境楽園、377万人、ずっと落ちてきて、下呂温泉が129万人だということなんですね。それで、クアリゾートが102位で18万6,000人だと、こういうデータがあるんですね。中津川ふるさとじまん祭、最近ではどうかわかりませんが、11万5,000人だと、こういう数字が出ておるんですよ。おいでん祭が10万人、これ、観光なんですよ。十日市が6万2,000人と、これが岐阜県内で264位と、こういうデータがあるんですが、実は観光というものの認識をどういうふうにしていくかというのは、やっぱりこれからは点から線へ、線から面へということで、委員に私はヨイショするわけじゃないんですが、私、最近、加子母

へ2度、会社の連中を連れて、1度は消防団の連中と一緒に加子母をずっと散策しました。奥行きが深いところだなということで、加子母大杉とか、トマト工場を見て、これはなぜ社員を連れていったかといいますと、こういうものも知っておくということと作業性の効率というものが素晴らしい。ああいうのを見るのも農業観光かなというふうにも思ったり、産業観光かなと、こういうふうにしたわけで、やはりお互いが結び合う連携こそ私は観光をもう一度掘り下げていくいいチャンスになるのではないのかなと、こんなふうに思うわけです。

もう一点は、安全安心ということで、私が尊敬しておる方いろいろな機会に話をするんですが、病院の問題があるんです。病院、糖尿は摂生して薬を飲めば治ると。脳梗塞は3時間か4時間あれば大丈夫と。それから、いろいろ病気があるんですが、心臓病だけはもう待たないでということ、おたくのまちには心臓病外科はおるかということで帰ってきて調べたら、内科の先生が順番制で当番をされておるといふことで、こういう問題も、これから、安全安心、特に産婦人科の先生をどうするかということ市当局の皆さんも大変ご苦労されておりますが、いろいろなことで皆さんと力を合わせていかなきゃいけないと、こういうふうに思うわけです。

そういう中で、安全安心ということで、そのお医者さんたちの、今度は人づくりになるわけですが、教育レベル、そういう方たちの子弟はほとんど中津川に子供たちは学校へ行っていないということもまた最近再確認したわけです。やはりそういう方たちが中津川の学校に行けるように、みんなで学力レベルをしっかりやっつけていかないと。

もう一点は、移住・定住という問題であります。中津川市はIターン住宅、Uターン住宅ということでやっておりますが、今日実はちょっと調べてほしいということであるところに命じておりますが、ここは一応満室だといふふうに聞いております。また、いろいろな数年後にはこうなさいと、こういう枠組みがありますが、中心市街地とIターン、Uターン住宅、あるいは市営住宅、今よそのまちではそういうものを市営住宅で民活を利用して市が借り受けてやるという何かシステムがあるようですが、そういうことも考えながら、中心市街地という問題と観光を線で結んでいくと、こういうようなこともいろんな多面的に考えていく必要があるかと、こういうふうに思います。

【委員長】 どうもありがとうございました。

この点に関して、どうですか。

【副委員長】 観光の話ですね。実は私、昨日から中津川におりまして、昨日は付知のキャンプ場で泊まって、今朝も付知峡で泳いで、その後来たんですけれども、やはり非常に素晴らしい自然がやっぱり残っているんですよ。なかなか地元の方というのはそういうところは当たり前過ぎて気づかないんですけれども、でも、やはり非常に素晴らしい資源がたくさんあると思いますから、それをほんとうに磨いていけば、ここ、やっぱり繋がっていくと思います。

基本的には、交通というのは派生需要といふか、本来需要じゃありませんので、本来のところ輝きがなければ人は来ませんから、やっぱりそこは地元の方が自分のところに来るだけのものに磨き上げていくという必要があると思います。

それと、もう一つがこの観光というのですけれども、新しいということでリニアそのものがやっぱり大きな観光資源になると思いますので、このリニアというものを観光としてどういうふうに位置づけていくのかというのが非常に重要ではないかなと思います。特に工事中の段階でもいろんな見学、視察、そういうことに対しても県外からいろんなそういうことも誘致ができると思いますし、あるいは子供たち向けの学習の場としても非常にいい場だと思いますので、そういうものをできた後ではなくて、15年間の中、つくっていく中でも観光として活かしていく。それが1つ大きな観光資源になるんじゃないかなというふうに思っています。

以上です。

【委員等】 皆様からご意見がかなり出ておりますので、繰り返しの部分もあるかと思いたすけれども、先ほどここの中津川の中にはたくさんのお土産と言われるものがあったりだとか、あとは産業に関してもそれを利用した体験型の、最近ですと、例えば郡上のサンプルというのが非常に郡上に対して観光客を呼んでいたりだとかという、そういった産業をうまく活用して体験型にしたりだとか、あとは自然の農業というものを活用して刈り物の体験をしたりだとか、さまざまなものがあると思うんですね。多分、女性なんかですと非常に食べることが好きですので、最初はそれがきっかけでいいと思うんですね。それプラスアルファ、名所、観光地を組み合わせ、その後は最初は半日でも日帰りでも来ていただく。そして、それを次には1泊で宿泊のお客さんと呼んでいくというような形で、まずは今現在15年間でしていけるところを考えていって、そこの部分でもプラス効果を生み出すという案も順番に出していけたらいいかと思いたす。

【委員長】 ありがとうございます。

大分ご意見もたくさんいただいたと思いたすけれども、特に今、調査の仕方といたすか、問題になっております資料2の2ページから4ページにずっと列挙してございますが、ここに書いてある調査の進め方について特にご異論はなかったと思いたす。

【委員等】 ちょっと別の切り口から委員長にお伺いしたいんですけど、この地区はご承知のように津波が来ることはない、積雪も少ない、それから、富士山が噴火する心配もない、首都直下型震災の心配もないという点では、首都圏に何かあった場合のバックアップ機能という点で考えた場合に非常にいいロケーションだと思うんですね。

それで、今はちょっと政局でござたしてそういう議論がないんですけど、震災直後は首都圏のバックアップ機能、首都機能のバックアップ機能といたすか、中央政府のバックアップ機能というようなことが議論されていましてですけど、大きな話としてそういう機能をこの地に引っ張ってくるというようなことは可能かどうか、リニアが走るまでに15年あるわけですので、じっくり時間をかけてそういう誘致ができる可能性がないかなというようなことを考えるわけですが、いかがでしょうか。

【委員長】 直接私にご質問でございますから答えさせていただきますけど、首都機能バックアップ等の問題は私も最近では数カ所のところで発言させていただいているんですけど、これは考えなきゃいけないと思いたす。考えなきゃいけないと思いたすけれども、これはやはり私は課題としては大都市の課題だと思うんですね。首都機能をバックアップするための周辺条件というのは、相当都市的な活動レベルが総合的に充実していないとバックアップはなかなかできません。

ところで、首都機能をバックアップするためには東京から迅速に来られなきゃいけないし、それから、それは災害が生じて首都機能がダウンしたときにすぐ動けるといふんじゃなくて、そのバックアップ機能を用意しておくためには常時東京との間が簡単に行ったり来たりできるようにならなきゃいけない。そういうことからいきますと、リニア中央新幹線と絡んだ大都市の仕事だろうと、こう思っております。そういう意味からいくと、名古屋都市圏としてはこの問題は非常に重要だし、おっしゃるように、急いで考えていく必要があるだろうと思いたす。

今、関西広域連合というのが例の橋下大阪市長が中心になって知事時代に唱えたんですけど、そのバックアップ機能を神戸に持ってこいと、こう言っています。そういうのと対抗して名古屋都市圏でしかるべく押さえなければいけないんですけど、そのときに名古屋都市圏の中でどこに持ってきて、そのときに中津川というのがどういう役割を果たせるのか。ほんとうにそのバックアップ機能をここへ持ってきたときに、名古屋の総合的な都市機能ですぐ支援できるような体制がつかれるかどうか、そういう大問題がございます。この議論をやらなきゃいけないと思いたす。ただ、この議論は、正直言って、この中津川のこの策定委員会ではちょっと手に余るということがござまして、私

はここでは具体的な問題としてお話ししておりません。

よろしいでしょうか、この点については。

それでは、大分ご議論いただきましたけれども、この調査方針については特にご異論はなかった。今日、今意見がたくさん出ました。これは全部、事務局の頭にとどめていただいて、今後の調査作業に反映していただくということでご了承いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 それでは、この議事2につきましては事務局の案どおりに進めていただくということにしたいと思います。

それでは、続きまして、議事3の「各種アンケート調査の実施について」に入ります。資料3-1と3-2を使いまして事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、ご説明を申し上げます。

資料3-1の市民アンケート案をお願いいたします。

本調査は、市民の皆様がお考えになっておられます期待や不安、現在の中津川市の持っている魅力、リニア時代に高めるべき魅力をお伺いすることを目的に実施したいと考えております。先ほど申し上げました地域間交流の状況も併せてお伺いしたいと考えておるところでございます。

サンプル数としては2,000程度、年代ごとに7区分、15地域で均等割と人口案分ということで振り分けさせていただきました。地域や年代の特性を読み取りたいというふうと考えておるところでございます。

案につきましては、次ページ以降につけてございます。

まず、リニア中央新幹線計画についてあまりご存じない方もおみえになりますので、計画の概要や波及効果等についてマイナス面も含めてご説明するペーパーを付けまして、ご協力をお願いしたいというように考えております。8月20日頃にできれば発送して、2週間ほどの記入期間を設けまして、9月7日に返送していただくというような計画で進めたいと考えておるところでございます。回収、分析につきましては、三菱UFJリサーチ&コンサルティングに委託いたします。

詳細につきましては、中身、時間が迫っておりますのでご覧いただきたいというふう考えております。

それから、資料3-2をお願いいたします。

これは市内企業向けのアンケート案でございます。市民アンケートと同じく、リニアに対する期待や不安について、企業としてのお立場からお考えを伺いたいということでございます。中津川商工会議所様、中津川北商工会様の全面的なバックアップをいただくことができましたので、会員事業者様のほうにご送付させていただく計画でございます。回収等の日程や委託先につきましては、今の市民アンケートと同様でございます。丸山副委員長様、岡山副委員長様、誠にありがとうございます。

アンケートの説明につきましては、具体的に補足をしていただく予定でございましたけれども、少し時間が迫っておりますので、以上で終わらせていただきます。

【委員長】 ありがとうございます。

この件につきまして、何かご質問はございますか。

【委員等】 具体的にアンケートをされるということで、今回それぞれ2,000サンプルで、この15年前のこの段階でとられるということに非常に意味があると思います。

まず1点なんですけど、今とる時点において、今から進めていくこのビジョンがきちんと計画どおりされるのか、目的を持って達成されていくのかという15年の過程を見ていくという指標にもなると

思うんですね。ですから、1つは、まず今回するんですけれども、例えば10年後に同じものをしたときに期待感が増しているだとか、実際にほぼ同じ項目をリニアが通った後にしたら、そこはプラスに変わった、もしくは残念ながらマイナスになってしまったということがあると思いますので、今回このアンケートに関してはかなりもうちょっと内容を練られたほうがいいのかなということがまず言えます。

例えば申し上げますと、市民アンケートの実際の項目で資料3-1から4枚目になるんですが、実際市民の方に聞く設問3の中の項目なんですけど、リニア中央新幹線開業に対してあなたが不安に思うことは何ですかということで、例えば2番の市内の事業所が市外へ転出してしまうこと、若年層を中心とした人口流出が進むこと、これは多分リニア中央新幹線がなくても起こってしまうことかもしれないですね。というところが整理されていなかったりだとか、項目として、例えば今せっかく他の地域委員会だとか女性・若者委員会などで出ているビジョンに関して、少なくとも市民の方が実際に思っているものを設問4の中で整合性がとられているのかだとか、そういったことをきちんと見たほうがいいのかということと同じく、企業アンケートに関しても同じ項目に関してプラスととらえる企業とマイナスととらえる企業というのはどこに違いがあるのかということで、企業の例えば景況感もあわせて属性として聞いておくだとか、そういったことも少し検討されて、多分この2,000のサンプル数というのは非常に労力も経費もかかることなので、少しこのままいいですよそのまま進めるのではなく、もうちょっと検討をされたほうがいいのかなと。細かいことになってしまうので、以上でとりあえず終わります。

【委員長】 ありがとうございます。

他に何かお気づきの点がございますか。

これは調査のスケジュール、さっき説明がありましたね。どこかに書いてありましたっけ。

【事務局】 今の計画でございますけれども、順調にいきまして8月20日に発送、2週間ほどの記入期間を経て9月7日までにご返送いただくと、それから分析に入りたいというふうに考えておるところでございます。

【委員等】 ちょっとそれはおかしいことない、そんなもの。だって、中身、その設問の内容によっては全然違っちゃうもので、それを一部の人で考えただけで、そんなのは俺にとったら何の価値もないやない。そのアンケートで決まっちゃうやん。それはおかしいよ、そんなことは。

【委員長】 今、委員からのご指摘もございますし、せっかくの大規模な調査でございますので、もう少しアンケートの内容を検討、詰めたほうがいいかと思っておりますけれども、これはスケジュール的にちょっとずらすわけにはいかないですか。

【事務局】 今の委員からのご意見ですけれども、基本的には一部の者でということではなく、幹事会のほうに諮らせていただいておりますと思うんですが、ここでご承認いただけたらという前提の案でございます。

ですので、今こういった形でご指摘いただいたものですから、修正案をまた用意いたしまして、また、今、ご意見をいただければしっかり盛り込んでまいりたいと思っておりますし、修正案に基づいて私どもの方で今回、3回目の策定委員会までに時間がございますので、文書にてやりとりをさせていただくというような形で、ご承認いただいて入っていきたくと、それによってちょっと工程は遅れると思っておりますけれども、何とか第3回の策定委員会に結果をご報告できるような工程を持っていきたくと考えておりますので、よろしくお願いたします。

【委員長】　そういうことですから、大体そのスケジュールの点はデッドラインは調査結果が第3回の委員会に報告できるようにしたいと、こういうことでございますので、まだもう少し検討する時間はあると思います。

私、議長の権限で仕切らせていただきますけれども、問題はやっぱりアンケートの中身だと思うんですね。質問票の中身だと思いますので、中身について今日皆さんに、内容を初めて見ていただいたわけですから、もう一度目を通していただいて、ここはこういうふうに直したほうがいいんじゃないかというご意見がございましたら、事務局のほうに連絡をいただけませんか。それをまとめて、今日の委員の意見も入れて案をつくり直していただいて、できれば委員にもう一度お目通しいたごいて、それで実査に踏み切るということにしたいと思います。

いつ頃までに意見をいただいたらいいですかね。

【事務局】　1週間ぐらいの間にいただけるとありがたいですね。

【委員長】　大分厳しいことを言っておりますね。1週間ね。1週間というと……。

【委員等】　1週間でも何日でもいいけど、そういうやつを聞いてもらわんとわからんねんって。言ってこいっておっしゃれば言ってくるけど、そうやなけりゃあんまり言いとうないでね。みんなそうやと思うよ。思うことはいろいろあるけど、出してみても集めてみると、何項目かに分かれるんですよ。それをやりゃいいんやって。委員の衆が、あるいは関係者が考えた、それをまとめてというか、整理して、そして項目に持っていきゃ、それがいいんじゃないかなと思うんです。

【委員長】　そういうふうにいたします。ただ、それを、いろんな人の意見をまとめていただいて、事務局に集約していただくのが1週間ではちょっとあれですよ。

【委員等】　書いて出せといたら今日徹夜してでも書きますから。そいつを明日1日で整理してもらえりゃええもんで、できんことはないですよ。皆さん、思いはたくさんあるわけですから。

【委員長】　出してもらうのが1週間ということですね。

【事務局】　はい。出してもらうのが1週間です。

【委員等】　1週間ありゃ十分ですよ。

【委員長】　ということでございますから、今日から1週間というと来週の盆明けということですね。ということで、事務局のほうにいろいろご意見を集約していただいて、今言いましたようなことで。

委員は長くあけることはないですか、今月末。

【委員等】　今月は大丈夫です。

【委員長】　じゃ、そういうことで処理させていただきたいと思います。

私もこの内容はもう少しいろんな方の意見を聞いたほうがいいのかと思いますので、皆さん、お気づきの点をぜひひとつ。アンケートの設計って難しいんです。ぜひ聞かれる立場に立って問題点を洗い出していきたいんですね。こんなものは答えられるとか、それから、こんなあいまいなことは前提がわからなければ答えられないぞというのがあるといけませんので、そういうあたりをチェックし

ていただければと思います。

【委員等】 それと、先日、加子母の商工会の若い衆から、リニアのことを商工会でやらならんけど、誰のところでそれを取り上げてもらえるかどうかということをおのところに言ってきたわけですよ。だから、実は明日の晩、加子母商工会をやるんですよね。来れん人はアンケートを書きなさいということなのでここに来ています。

これは多分、副委員長のほうで、全地域で、全支所でやってみえることだと思うんですが、これは非常にはっきりしていいんですよね。こういうのを商工会として出ます。それを一応、加子母は村ですから村づくり委員会で19日だかにやりますので、それにかけて出すということにしたいと思うんですよね。その時点でなるべく広い人に、そして、また、特に若い連中にいろいろ意見を聞いていきたいなと思っています。

【委員長】 その後、実際に実査が行われますので、場合によってはそれが二重になる可能性があるんですね。そこらのところがちょっとありますので、今おっしゃるような手続をとっていただくのは大変結構だと思うんですけども、またその2,000通の配分のうちの1人に当たるかもしれんぞと言っておいていただいたほうがいいと思います。

それでは、そういうことで、ちょっとスケジュールは後ろへずらさせていただいて、もう少し内容について検討期間をとるとということにしたいと思います。それでこのアンケートの進め方はよろしいでしょうか。ちょっと修正させていただきますが、そういうことでご了承いただけますか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 ありがとうございます。

それで、大分時間が押してきて事務局のほうに焦っているようでございますけれども、これで議事3まで終わりましたから、私の仕事はこれで大体終わりになるんですね。

何か全体を通して、この際ご発言のある方はいらっしゃいますか。今日はちょっと時間がないので、できれば短くお願いしたいんですが、どうしてもという発言のある方は手を挙げてください。

それでは、本日の審議事項はすべて終了いたしました。大変熱心なご議論をいただきましてありがとうございます。ちょっと予定の時間、事務局から指示されておりました時間は20分ほど遅れておりますけれども、事務局のほうにお返しいたします。私の議長の仕事はこれで終わらせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

【司会】 ありがとうございます。それでは、今後ともビジョン策定に向けて皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、その他のほうに入らせていただきます。

まず初めに、県のリニア中央新幹線活用戦略研究会の各部会について、参考資料1のほうで、事務局より説明を申し上げます。

【事務局】 それでは、ご説明申し上げます。

参考資料1をお願いいたします。

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会の下部組織でございます3つの部会が7月11日、12日、19日に開催されました。市からは産業振興部会と観光振興まちづくり部会に商工観光部長、それから、基盤整備部会には企画部技監が出席しております。

主な検討課題といたしまして、各部会からここに掲げてございます3つの項目が出されました。こうしたテーマに基づき議論を進めていかれるということでございます。市の策定委員会の議論も踏ま

えながら、それぞれの部会に市としてご提案をしてまいる所存でございます。

それから、各部会にてご提示された資料につきましては、資料1から3としてつけてございますので、かいつまんでご説明するとよろしいんですが、そこもちょっと割愛させていただきたいと存じます。

また、各部会の共通資料としてリニア中央新幹線開業効果についてということで、リニア開業時の旅客流動の変化、リニア開業による圏域別玄関口駅利用割合の変化、リニア建設及び開業による経済波及効果の3点が示されたところでございます。本日、岐阜県公共交通課のほうからおいでいただいておりますので、若干補足していただければ幸いに存じます。

【委員等】 それでは、ちょっと時間も押しておるようでございますので、オブザーバーで参加させていただいております県公共交通課のでございます。

じゃ、私のほうから簡単にご説明だけさせていただきます。

特にリニアの開業効果ということで、共通資料のA3の見開きのものがお手元にあるかと思いますが、リニアが開業した際にどの程度の経済効果があるか、あるいはどの程度の利用者が見込まれるかということ、今日もお見えになっております三菱UFJリサーチ&コンサルティングさんによる1つの試算ということで数字として出させていただいたものでございます。

新聞にもかなり報道されておりましたのでご覧になった方もあると思いますけれども、若干簡単にご説明させていただきますと、まず、旅客流動の変化ということで、左上のほうにありますリニア岐阜県駅をどれだけの方が利用すると見込まれるかということでございます。ベース値からシナリオ2-2まで、いろんなシミュレーションによりまして変わってくるということでございますけれども、一番マックスで1日当たり3,200人ぐらい、これはいわゆる岐阜と首都圏の利用者ということと、プラス乗員人員という数字でございますけれども、この程度の数字が見込まれるということで、今現在の例えば岐阜羽島駅の東京方面が1,000人ぐらいということを考えますとかなりの利用者数が見込まれるのではないかとということで、この3,200人という数字は乗降者数でいきますと今の恵那駅とか中津川駅の利用者数とほぼ同程度の数字ということでございます。幅がありますけれども、マックスで見込むと3,200人ぐらいが利用するのではないかと1つの数字でございます。

それから、2番目で、圏域別駅利用割合の変化ということで、こちらを見ていただきますと、今、岐阜羽島駅と名古屋駅に分けて岐阜県民の皆様が利用していると。これは東京に行くに当たってどの駅を利用するかということでございますが、これがリニアが開業しますと、リニア駅は東濃地方の方と、あと、飛騨地方の方の半分ぐらいが利用するであろうと。これもアンケート調査から出した数字でございます。東濃地方、あるいは飛騨地方へのアクセス、こういったものが重要になってくるのではないかとということでございます。

それから、右のほうでございますが、経済効果がどの程度あるかということで、これはまず旅行者が増える分、一番上でございますけれども、国内旅行者が46万人、それから、外国人旅行者が6万人増えるということから旅行消費額が出まして、その生産誘発効果というものが218億円ほどあると。これは県の観光消費額の5.3%相当ということでございまして、かなりインパクトのある数字が出るということでございます。

それに伴う雇用創出ということで、さらにプラス2,041人、年間で見込まれるということ、それから、総合車両所ができますので、こちらの従業員が1,500人程度東濃に住むと仮定をいたしますと、それらの方が年間消費する額が53億円、それに伴う生産誘発効果がさらに79億円あるということでございます。同じように、雇用創出効果が502人程度見込まれると。

それから、建設段階におきましても、建設事業費がかなり県内に投入されます。こういったことを考えますと、同じく生産誘発効果がこれは13年間の工事期間というのを見込んでおりますけれども、1,470億円ぐらい見込まれるということでございます。

あわせて、固定資産税もかなり地元に入りますということで、下の数字を参考までに載せていると

いうことです。

あくまで1つの試算でございますけれども、県のほうもこれから活用戦略というものをつくっていく予定でありますので、そのベースとなる数字ということで、ある程度、どの程度人が利用するかとか、あるいはどの程度効果があるかということをも1つの数字として、試算ではありますけど、示していく必要があるだろうということで示させていただいた数字ということでございます。あくまでご参考ということで説明させていただきました。

以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

ただいまの説明について、何かご質問があれば。よろしいですか。

それでは、次に、次回以降の開催日についてご案内をさせていただきます。

【事務局】 それでは、ご説明申し上げます。

参考資料2をお願いいたします。

先般、日程調整をさせていただきまして既にお知らせしてございますけれども、第3回は11月19日月曜日、これは午前10時から12時ということで、第1回目の会場と同じ文化会館の2階の多目的研修室で開催したいと考えております。それから、第4回につきましては、2月18日月曜日、午後2時から4時、本日のこの会場にて開催いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【司会】 ただいまご案内のとおり、ぜひともご都合をつけていただきまして出席くださいますようお願い申し上げます。

続いて、9月5日に開催予定のリニア中央新幹線を活かした地域づくりシンポジウムにつきまして、岐阜県のほうよりご案内をさせていただきます。

【委員等】 県公共交通課でございます。

引き続き、シンポジウムのほうの説明をさせていただきます。

先ほどご説明させていただいたとおり、活用戦略というものを私どもでつくっていくんですけども、その中でもやはりリニアの効果とか、あるいはリニアに向けた取り組みがいろいろ必要でありますよというようなことを皆様方で議論を深めていただく必要があるということで、9月5日でございます。恵那文化センター大ホールでリニア中央新幹線を活かした地域づくりシンポジウムということで、間もなくぎふ清流国体があるということもありますので、国体応援事業として実施をさせていただくということでございます。幅広く県民の皆様に参加していただきたいと思っております。定員850名程度ということで、内容は、大変申しわけないんですが、委員長の竹内先生にはちょっとご参加いただいていないんですけども、お知り合いであるということ伺いましたけれども、九州の樗木先生という、これは九州新幹線のいろんな事例で地域づくりの取り組みをされているという先生、他の県の方からご紹介もいただきまして、樗木先生にご講演をいただくと。先行事例に学ぶというような意味でこちらをお願いしております。

それから、パネルディスカッションのほうでございますけれども、今日もお越しいただいている高木副委員長にコーディネーターをお願いしております。パネリストとして、こちらもお見えの丸山副委員長、それから、行政代表として恵那市長さん、それから、観光関係で瀧さんとか、あるいは今の基調講演の樗木さんですね。それから、私どもの部長の山本ですね。このメンバーでパネルディスカッションということで地域づくりについて議論をしようというふうに考えております。

かなり広い会場でございます。幅広く、私ども、ホームページとか、そういうものでPRもしておりますけれども、この策定委員会の皆様方にもぜひご参加いただきたいと思っておりますので、裏側にファクスの送信とか、あるいはホームページからメール等でも申し込みができますので、ぜひとも奮っ

てご参加いただきたいと思います。

ちょっとそのご紹介をさせていただきました。ありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。

市のほうといたしましても、本策定委員会、幹事会とビジョン策定にかかわっていただきます皆様、また、中津川市民の会をはじめとしまして、県の期成同盟会の会員の皆様方にもご案内をさせていただきますので、多数ご参加をいただきますようお願いいたします。参加を希望される方につきましては、事務局のほうまでお申し出ください。

それでは、長時間にわたりましてご審議をいただきありがとうございました。最初をお願いをさせていただきましたように、本会議の資料、議事録を含めてすべて公開とさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。

それでは、閉会に当たりまして、最後に、岡山副委員長より閉会の言葉をお願いいたします。

【副委員長】 それでは、本日は、大変長時間にわたり、予定時間を大幅に超過をいたしまして、各界各方面から多様な意見をたくさんいただきました。ほんとうにありがとうございました。今後、今回いただきましたご意見を幹事会、また、部会でしっかりと受けとめていただきまして、次回は11月を予定しておりますので、その段階では一歩進めた議論ができることを期待しております。

本日は、本当に長時間にわたりましてありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。

【司会】 どうもありがとうございました。

それでは、最後に1つだけご連絡といたしますか、お知らせをさせていただきます。

本日19時から、恵那市の主催によりまして、リニア中央新幹線と地域づくり講演会というのが竹内委員長の講演で恵那文化センターのほうでございます。もしお時間のご都合のつく方はご参加願えればと思います。

それでは、本日は大変ありがとうございました。

— 了 —